

地区の委員長宛に昨日、R Iの奉仕プロジェクトの委員長からメールが届きました。「識字プロジェクト参加の機会について」と題したもので、内容は次の通りです。

「世界銀行の資料では、4人1人の成人（3分の2は女性）は読み書きができない状況です。人々が基本的教育を受け、特に初等教育を終了することは、子どもの死亡率を低下させ、予防可能な病気の蔓延を防げるだけでなく、満ち足りた経済的活動を実現するための能力を身に着けることにつながります。3月はロータリーの識字率向上月間です。識字率向上の活動に取り組むまたない機会となります」としています。

世界の活動の例として、3つ示されていました。

米国カリフォルニアのクラブは、サンディエゴ読書協会と協力し、読み聞かせの大切さを記した資料を入れたバッグを5つの病院で25セットずつ年2～3回提供しているそうです。

ブラジルのクラブは、視力回復キャンペーンを実施。公立学校に通う低所得層の2029人を対象に視力検査をしました。職業奉仕につながる活動ともいえると思います。

米国テキサス州のクラブはメキシコの3つのクラブとともに、国境をまたいで小学校に図書室を設置するため2万ドルのマッチンググラントを申請されたそうです。学校の保護者も呼応し、本を購入したそうです。世界各地でこのようなプロジェクトをしていると紹介されていました。

クラブ奉仕プロジェクトとしては、地域のニーズにあった計画や、地域の人々と心から交流でき、ともに奉仕できるプロジェクトの立案が大切である、ということを経験とさせていただきます。また、次年度にはなりますが、奉仕プロジェクト委員会で調査、計画、プロジェクトを行っていきたいと考えています。よろしくお願ひします。

★ ハイライト よねやま 132号 ★ 2011年2月10日発行

1. 寄付金速報 — 下半期もやや厳しいスタート —

1月までの寄付金は前年同期に比べて0.06%増と、ほぼ前年並みとなりました。普通寄付金は2.6%減、特別寄付金が1.7%増です。昨年11月以降、次第にプラス幅が減少しており、1月も単月でみると直近10年間で一番低い数字となっています。

1月は普通寄付金の納入が主となる月です。全クラブの79%にあたる1,822クラブからご納入いただきましたが、納入率が60%台にとどまっているところも5地区あります。各地区の理事・ガバナー・米山奨学委員長・寄付金増進担当の米山委員の皆さまへ送付している「寄付金傾向」に地区別納入割合を掲載しています。ご確認いただきまして、お早めにご送金くださいますようよろしくお願い申し上げます。

2. 4月からの新奨学生が決定！

4月からの新規米山奨学生の面接選考が各地区の選考委員会によって行われ、1,516人の応募者から616人の合格が決定しました。

合格者は、博士課程147人・修士課程292人・学部課程154人、クラブ支援奨学金が9人、地区奨励奨学金が14人です。このほか、海外学友会（台湾・韓国）推薦による2人の候補者が決定しています。

国籍・地域別では、中国が49.8%（前年度52.3%）、韓国17.0%（15.3%）、台湾6.2%（5.5%）、その他26.9%（26.9%）です。各地区選考委員会が国籍バランスをより重視した結果、昨年に比べて中国籍の合格者がやや減少しました。

今後、辞退者が出るなど多少の変動が見込まれますが、今回の合格者、そして昨年度からの継続奨学生210人を合わせた828人が、2011学年度の奨学生として新たなスタートを切ります。

3. 学友から10万円の寄付 —20年ぶりに世話クラブ訪問—

日本に住み、夫と共に家具の企画販売会社を営む米山学友、何玉翠（かぎよくすい）さん（台湾/1987-89）が、世話クラブの奈良RCの例会に出席した際、米山奨学会へ10万円を寄付してくださいました。

今年1月末、何さんは東大阪みどりRC会員である夫の北山治信氏に伴って、奈良RCの例会にビジターとして参加。20年以上も前の奨学生とあって、何さんだと気付く会員はいませんでした。自己紹介のなかで「私はこちらでお世話になった元米山奨学生です」と名乗ると、当時から在籍している会員は「思い出した！」と、膝を打って喜びました。何さんは、「米山学友である私は、恩返しだけではなく、常に社会の役に立てよう頑張ることが使命だと思っています」と話し、その場で10万円をクラブ会長に手渡しました。

2011年 3月10日(木)

第 32号

本日のプログラム	三次RC創立50周年実行委員会
次回例会	3月17日(木) 12:30~ 三次商工会議所
次回プログラム予告	PETS報告

例会記録・・・3月3日

- 点 鐘・・・中川筆之 会長
- ソング・・・「君が代」「我等の生業」
- 四つのテスト・・・岡崎伸哉会員



会 長 挨拶 ■ 中川 筆之 会長



失礼します。一週間のご無沙汰でした。昨夜、6時30分から当会議所の第三会議室におきまして第二回目の新入会員セミナーが丸田担当委員長のもとで開催され総勢13名の会員が出席しました。メインテーマはロータリー財団についてで、小田大治2710地区担当委員によるオリエンテーションでした。かくいう私も財団のことはほとんど無知でして新しいことばかり聞くのみでした。その他フリートキング時間はロータリー用語の説明や、やたらと多い横文字の説明ではなく解説で盛り上がりました。例えて言いますとRCCとは、NHKの対抗馬ではなくRotary Community Corpsの略でロータリー地域共同隊という意味ですがこのcorpsを共同隊と訳するのが良いのか解りません。その他今年当番ですがGSEですがgroup study exchangeで交換留学生の意味です。WCSはworld community serviceで世界奉仕プロジェクトの意味です 本日は以上です。

幹事報告 ■菅原 暢之 幹事

■次週理事役員会を行います。

出席報告 ■明山 晃映 委員長

2月17日の出席報告					本日（3月3日）の出席状況			
会員数	出席者	Make-up	出席免除者	出席率	会員数	出席者	出席免除者	欠席
44	29	3	5	79.55%	44	32	5	7

Make-up 増田会員（ロータリーの友委員会）・伊藤会員（下関ローターアクト）・岡崎会員（新入会員セミナー）

- 山本和彦会員 連続出席3年
- 古永雅則会員 連続出席1年
- 丸田洋司会員 連続出席1年



SAA報告 ■ 属 吉行 SAA

スマイル25,000円

前田 茂	創作合唱オペラ「いのものけ」が3月26日・27日初演がようやく姿がみえてきました。
小田 大治	先日、中国新聞に妻が掲載されました。谷口様お世話になりました。
本人 誕生月	谷岡慶宣・藤谷博義・野村博之・児玉常典・松尾宏・石田光司郎
夫人 誕生月	今澤榮一・松尾宏・灘岡直隆
結婚記念月	今澤榮一・松尾宏・天野芳明・菅原暢之
入会月	前田茂・明山晃映
創業月	松尾宏・児玉敏宏

プログラム

ロータリー情報委員会



■明山晃映委員長
「2710地区奉仕プロジェクトについて」

ロータリーの奉仕部門として「5大奉仕」部門といわれるものがあります。これまで、クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕という4つのものがいわれていたのに加えて、昨年、新世代奉仕という概念が新たに提唱されました。CLP（クラブ・リーダーシップ・プラン）の中から出てきた流れです。

2710地区でも、各部門の部会長がおられます。新世代奉仕の部門は三次クラブの石田さんが部会長でおられます。部会の中に、ローターアクト、RYLA、インターアクト、青少年交換の4部会があります。

新世代奉仕は、本年度の前田ガバナーが重点項目とされています。青少年を対象とするこの奉仕部門を中心に、ロータリー情報としてお話しします。

ロータリーのホームページによりますと、ロータリーは長年にわたりすべてのクラブ活動の土台とされる5大奉仕部門を通じて、「超私の奉仕」に力を注いできました。プロジェクトに着手するに当たってクラブと会員が各部門にどのように貢献できるか広い視点から考えるよう奨励されています、とあります。

5大奉仕のうち、クラブ奉仕は親睦を充実させロータリークラブが機能的に機能することを主眼とします。職業奉仕はロータリアンがおのおのの職業を通じて他の人に奉仕し、高い道徳的水準を実践することを奨励します。各専門的な知識を提供し、かかわった人に意欲と感動を与えるということです。社会奉仕は地域の地域社会において人々の生活をよりよいものとするためにクラブがプロジェクトや活動を実施する機会です。三次クラブの、花火大会後の清掃奉仕などもこれに当たりま

す。国際奉仕には、世界中におけるロータリーの人道的な援助活動を広げ、世界理解と平和の推進のために実施する活動などが含まれます。ポリオプラスや青少年交換留学生支援などが該当します。

新たに加わった新世代奉仕について。新世代奉仕は、ロータリー青少年指導者育成プログラム（RYLA）、ローターアクト、インターアクトなどを通じて国際理解、地域理解などを進めています。

RYLAは、青少年交換など国際理解の創造を通じて青少年と若者によって好ましい変化をもたらされることを認識するものです。

ローターアクトは、ロータリーの提唱に基づいて、その地域の若い人たちが中心となって活動しているクラブです。先日の例会で、伊藤会員からも紹介がありました。また、インターアクトは、地域のロータリークラブが提唱し世話をされておられる、15～18歳の会のことです。先般も藤原会員の報告がありました。いずれも国際ロータリーの公式プログラムを、各クラブが取り入れて、それぞれの地域で実践し、地域に発信しているわけです。

実際に奉仕プロジェクトをどのように執行するかということに触れます。

先般、次年度クラブ奉仕プロジェクトの手引という冊子が届きました。その中身を紹介します。奉仕プロジェクト委員会の活動は5大奉仕に取り組む委員会の役割と責務について、「超私の奉仕はロータリーの第一の標語です」と記しています。「すべてのロータリアンには地元はもとより世界中の地域社会において奉仕を通じて人々の生活の質を向上させる方法を見出す責務があります。クラブ奉仕プロジェクト委員会の役割は、地元および海外の地域社会を支援する教育的人道的プロジェクトならびに職業奉仕プロジェクトの立案と実施を成功することです」と示しています。